

コミュニティ施設が“地域のたまり場”として地域交流に貢献

NPO法人ぐらす・かわさき

機関名	NPO法人ぐらす・かわさき		
所在地	川崎市多摩区登戸2258		
電話番号	044-922-4917		
地域概要	(1)管内人口 205千人	(2)管内商店街数 18商店街	
事業の対象となる 商店街の概要	(1)商店街数 1	(2)会員数 40商店	
	(3)空店舗率 12%	(4)大型店空き店舗数 0	
	登戸東通り商店会		
商店街の種類	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成16年度 コミュニティ施設活用事業（親子交流施設）

- ・親子、高齢者等の交流施設の開設、運営
- ・イベントの実施

総事業費

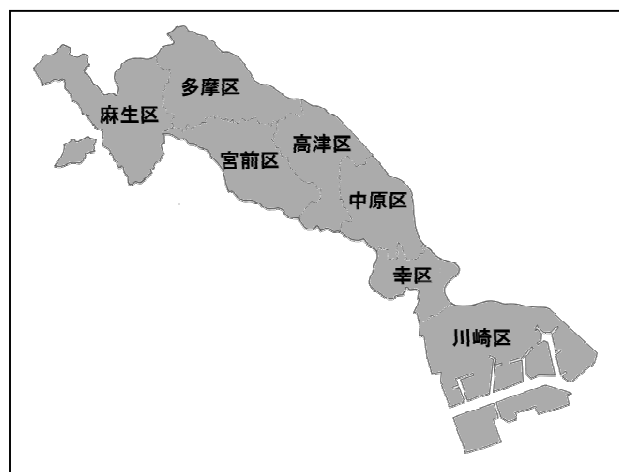
7,416千円

【事業実施内容】

1. 背景

川崎市は、神奈川県北東部に位置し、世田谷区や大田区など東京都の2区5市に接している。その川崎市の中でも多摩区は最北部に位置する。

多摩区登戸駅周辺地区は、南部の丘陵地と北部の多摩川に挟まれた平坦な地帯で、川崎の副都心として位置づけられる。近隣に専修・明治大学の施設や観光施設があり、新宿・渋谷などの都心へのアクセスも良好な住宅地帯であり、商業地としてのポテンシャルは高い。



川崎市の位置図（川崎市役所のHPより）

しかし多摩区住民の商店街利用率は低く、登戸地区においては複数の大学や住宅地があるにもかかわらず、買物客が他所に流出する傾向が強い。景気低迷に加え区画整理事業の長期化の影響もあり、地域商業・商店街の活力が減退しつつあり、空き店舗数が増加し、商店街のシャッター通り化が目立つようになっている。

そこで空き店舗を地域住民が交流するコミュニティ施設として活用し、商店街と連携した商業機能の活性化と「まちづくり、地域づくり」に取り組むこととした。

2. 事業内容

(1) 事業実施者

NPO法人ぐらす・かわさきは、市民活動を支援する団体として平成13年6月に設立された。事業内容は以下の通りである。

- ・コミュニティ施設「遊友ひろば」の運営
- ・コーポラティブ住宅の実現に向けた取り組み
- ・市民活動に関する相談・支援、地域の課題についての調査・研究、情報収集と発信



(2) コミュニティ施設概要

名称：「遊友ひろば」

所在地：川崎市多摩区登戸2258

広さ：22坪（コミュニティスペース部分：15坪）

①コミュニティカフェコーナーの設置

施設の一角にお茶道具を用意し、セルフサービスで自由にお茶が飲めるコーナーを設置するとともにトイレを開放し、交流や休憩の場を提供した。



「遊友ひろば」外観

平成17年2月にはセルフサービスではなくスタッフがサービスする形態に変更してメニューを拡充し、フェアトレード商品の展示販売も行った。

②市民グループへのスペース貸し

企画プログラムがない時間帯は、市民グループへのスペース貸しを実施した。（月間平均利用件数16回程度）



「遊友ひろば」内部の様子

(3) オープニングイベントの開催

8月1日のオープニングパーティの前後にイベントを実施した。

①ミニシアター「小さい劇場」（7月29日）

商店街内の農業協同組合でミニシアターを開催した。終了後、来場者にコミュニティ施設を内覧してもらうため施設まで誘導し「風船プレゼント」を行った。

②商店街の「美味しい食べ物」試食会（8月2、3日）

商店街から協力店を募り、逸品を紹介する「美味しい食べ物」試食会をコミュ

ニティ施設で開催した。

(4) 商店街の活力アップ事業

登戸東通り商店街の活力向上を図り集客力を高めるために、以下の事業を実施した。

①商店街イベントとのタイアップ企画

登戸東通り商店街で年 4 回行われる「わくわくナイトバザール」に参加し、以下の企画プログラムを実施した。

8 月開催	・コミュニティ施設でショットバーを開設（来場者 40 名）
11 月開催	・駄菓子屋さん開設 ・コミュニティ施設を抽選会場として活用 ・メイン企画（阿波踊り）を共催

②商店主による専門知識講座

商店街内の鮮魚店「魚幸」店主を講師として「魚の見分け方・捌き方」などの専門知識講座を行い、魚介をメインとしたパーティ料理を楽しむ「海の幸でクリスマス」を開催した。（参加者 18 名）



商店主による専門知識講座

③フォーラムの開催

「商店街とNPOの協働でまちを元気に」とのタイトルのもと、商店街とNPOの連携を検討するフォーラムを開催した。

(5) 地域住民交流事業

コミュニティ施設を活用した交流事業として、以下の事業を展開した。

①親子ひろばの開催

毎週木曜日にコミュニティ施設を 10:30 から 16:00 まで親子が自由に利用できる親子ひろばを開催した。参加費用は 200 円。以下の企画講座も実施した。（企画講座の実施日数：35 日、参加者 446 人）

なお、平成 17 年度からは、月曜日、木曜日の週 2 日で開催している。

1) 定期企画講座

- ・踏み踏みマッサージ：毎月第一木曜日に足裏マッサージでお母さんのリラクゼーション講座を開催
- ・親子で素食：毎月第三木曜日に素朴な素材の味を楽しむ食事会を開催



「親子で素食」の様子

2) 臨時企画講座

- ・ベビープール大会：商店街の空地を利用しベビープールを実施
- ・クリスマス企画：「乳幼児のためのクリスマスコンサート」「クリスマスリースを作ろう&親子でミニクリスマス」を開催

- ・フリーマーケット：子供用品などを交換するフリーマーケットを開催
- ・絵本の読み聞かせ等：絵本の読み聞かせやベビーマッサージ、手遊びなど、子供や親子を対象とした企画講座を開催

②一緒に作って味わう昼食会の開催

毎月第一第三水曜日に主に高齢者を対象として、施設の厨房設備で一緒に食事を作りコミュニケーションを図る昼食会を開催した。(実施日数 13 日、参加者 115 名)



健康麻雀教室の様子

③健康麻雀教室の開催

「お酒を飲まない、タバコを吸わない、賭けない」を守った健康麻雀教室を隔週金曜日に開催した。参加費は 1,000 円で、経験者と初心者向けの教室がある。(実施日数 53 日、参加者 302 名)

なお、平成 17 年度からは毎週金曜日に経験者向けを、毎週火曜日に初心者向けを開催している。また、平成 18 年 1 月から参加費を 1,500 円としている。

(6) 地域内の情報の収集・発信事業

商店街や地域内情報を広く地域住民に知らせるため、以下の事業を実施した。

①情報掲示板の設置

コミュニティ施設内にボードを設置し、地域情報等のチラシを自由に掲示できる場を導入した。掲示板には商店街の地図を掲示し、施設を訪れる人が商店街利用に結びつくよう工夫した。



商店街の様子

②会員情報誌「ぐらす・レター」の発行

毎月会員向けに発行している「ぐらす・レター」や、コミュニティ施設の PR チラシを通じて施設に関する情報を発信するとともに、商店街の店や人に関する情報を掲載し、地域住民への情報発信を行った。



ぐらす・レター



PR チラシ

【 効 果 】**1. 商店街の認知度**

まちづくりを専門の活動領域とするNPO法人と商店街が連携を図ることにより、地域住民との交流機能が強化し商店街の認知度が向上した。紙媒体を通じた広報活動や施設内の情報掲示板、商店主による講座開催などを通じて、商店街や各商店の価値の伝達を果たした。

2. 来街者の行動

交流を目的とした企画講座や教室の開催、カフェコーナーの設置により、多様な人々の利用が可能となり来街者が増加した。特に健康麻雀教室は予約待ちが出るほど人気が高く、横浜や藤沢など近隣市町村から参加者が訪れている。参加者同士のコミュニケーションの中で商店街の逸店や逸品が話題に上ることもあり、口コミ効果が売上増加に繋がっている。

3. 連携基盤の構築

市民やNPO法人と一体となりまちづくりに取り組むことにより、商店主の意欲が向上した。イベントへの協力や商店街活力アップのための事業を共に展開していく中で、中長期的に連携を図っていく体制が構築されており、商店街では今後「おかみさん会」の立上げが予定されている。

【 課 題 ・ 反 省 点 】**1. 人的体制**

事業の企画・運営に伴う業務が多々発生しており、現状のスタッフの人数では過重労働となっている。

2. 事業費の確保

親子ひろばや教室など地域住民交流事業の実施やコミュニティカフェの運営により施設管理費の一部は賄えているが、人件費を負担できるほどの収益には至っていない。受益者負担の原則により、事業として収益を得るしくみを構築する必要がある。

3. PR

今後事業への参加者を増大させるためには、コミュニティ施設の認知度の向上、NPO法人の活動趣旨への理解熟成を図る必要がある。こうした広報活動については単独でルートを開拓することが困難な場合もあり、地域団体と連携して行っていく。

【 事 業 の 実 施 ポ イ ン ト 】

- ・事業に対する共感者のネットワークを拡大することが大事である。地域を愛し地域の発展のために行動したいと考える市民はいるため、その人達をどのように巻き込んで事業展開していくかが鍵となる。そのためには事業の主体者が楽しみながら事業を行っている姿を情報発信することが必要である。

【 関 連 U R L 】

NPO法人ぐらす・かわさき <http://www.grassk.org/>